



# 三津寺仏像群

大阪市指定  
非公開文化財  
特別公開

2017年3月8日（水）～3月13日（月）

会場：三津寺本堂（中央区心斎橋筋2丁目）

【主催】大阪市教育委員会 大阪密教美術保存会

【共催】公益財団法人 関西・大阪21世紀協会 朝日新聞社



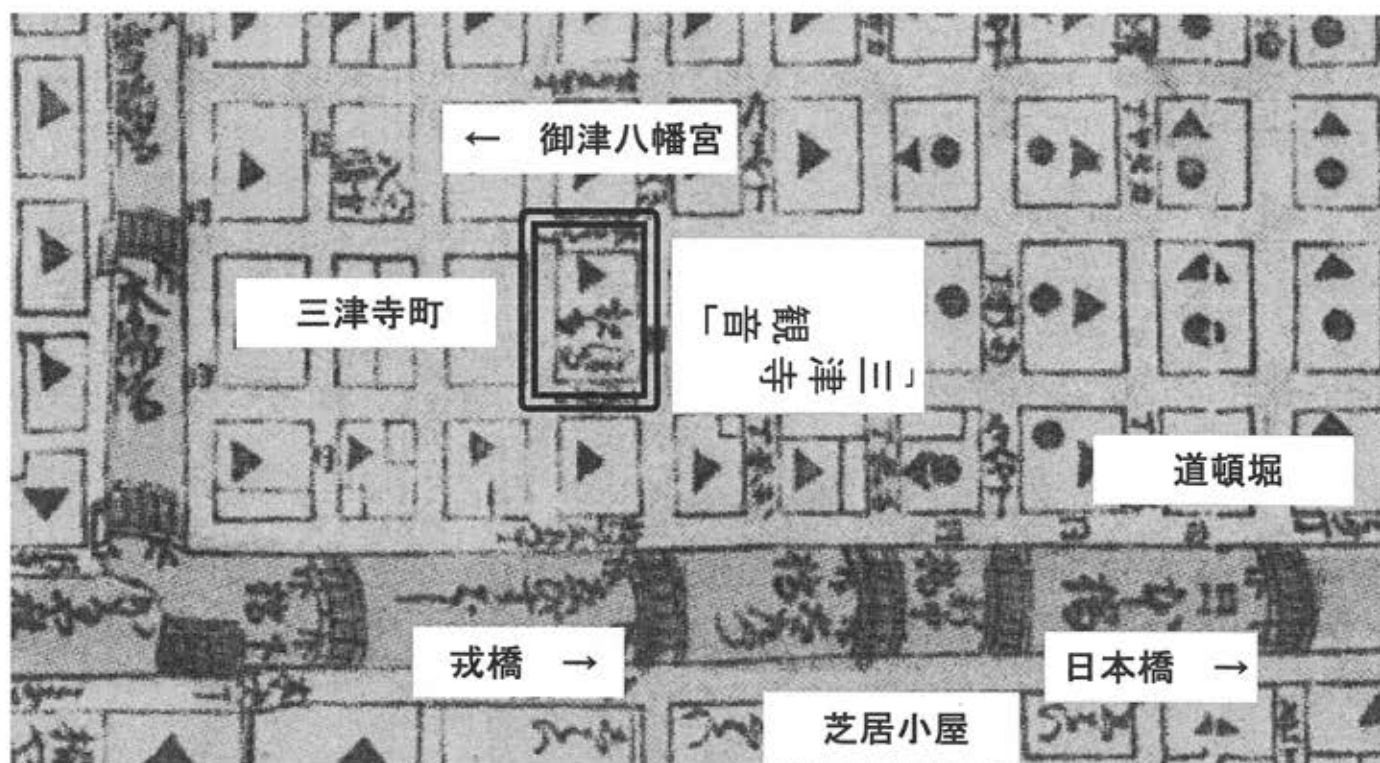
# 1 三津寺の由来

江戸時代、大阪の町には、人々の厚い信仰を集めていた大きな寺社がいくつもありました。しかし大阪の中心部は、先の戦災をはじめ、幾度もの火災による被害を受けたため、ほとんどの寺社が焼失してしまいました。

三津寺は、大阪有数の密教寺院のひとつで、奇跡的に火災の被害を逃れ、江戸時代の信仰の様子を今に伝えている貴重な存在です。弘法大師空海（774～835）を宗祖とする真言宗の寺院ですが、奈良時代の有名な僧侶である行基（？～749）が開いたと伝えられています。現在の本堂は、1800年代初めに建てられた建物といわれており、江戸時代の雰囲気豊かに残していることは、大阪市内ではとても希少です。

三津寺の名は、平安・鎌倉時代の記録に断片的に登場しますが、この時代のお寺の歴史はよくわかりません。石山合戦や大坂の陣など戦災の影響のためか、江戸時代初期、1600年代前半には大福院という小さなお寺となっていました。しかし、三津寺の名前は引き継がれ、周辺も「三津寺町」という町名でした。

1691年の地図では、「三津寺 観音」とあり、お寺の敷地は、一つの街区全体をしめる大きなものとなっています。



『新撰増補大坂大絵図』（1691年）より

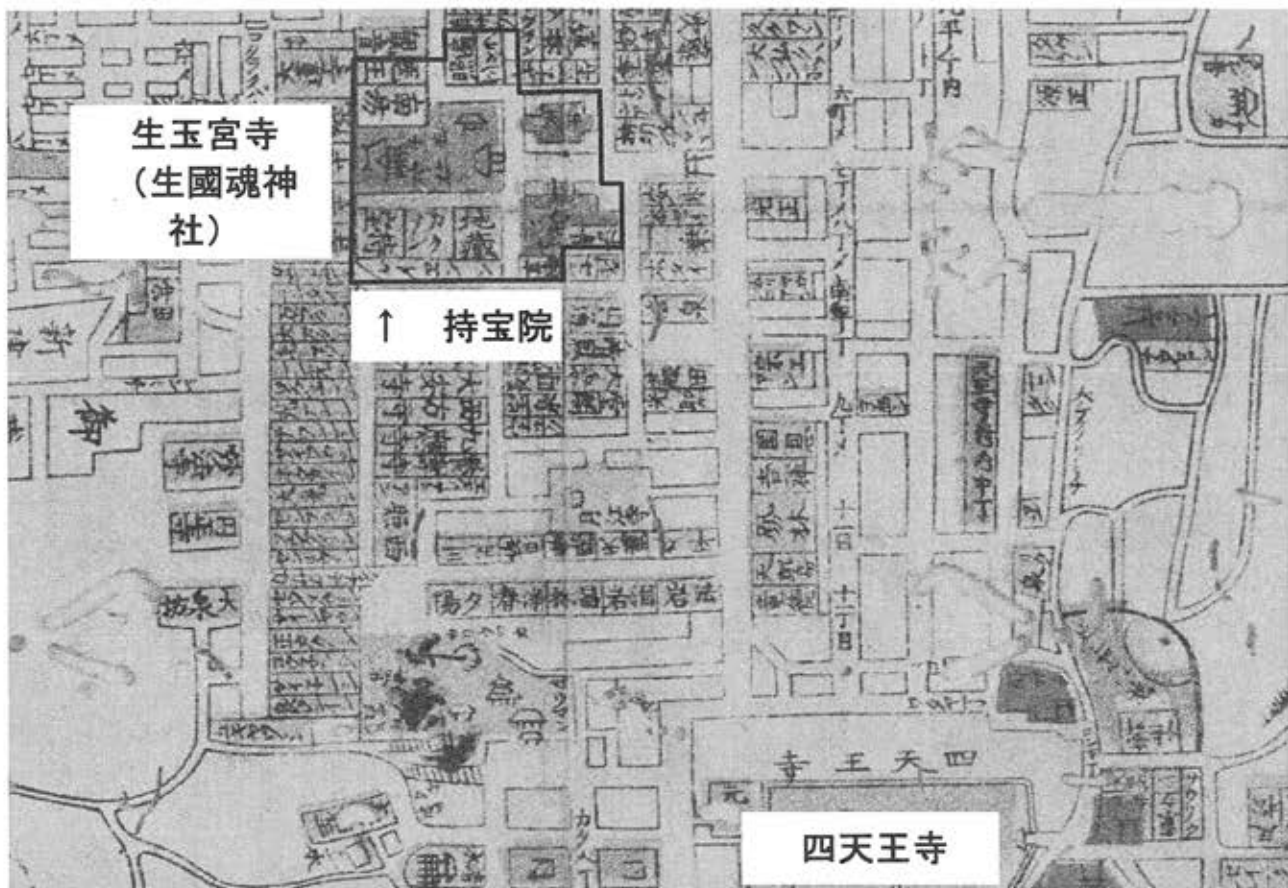
## 2 三津寺と生玉宮寺

三津寺が、本格的に整備され始めたのは、1680年頃、真空という僧が住職を務めていた時代です。真空は新たに弘法大師坐像などの仏像を造り、お寺の整備に大きく貢献しました。

1701年に刊行された『摂陽群談』という書物には、三津寺の本尊が十一面観音で、その体内に古い金銅仏を納めている、と記されています。

その後、明治の廃仏毀釈で、「いくたまさん」として知られる生國魂神社の境内にあった、幻の寺院「生玉宮寺」が廃寺となりました。生玉宮寺の仏像は、ほとんど散失したと考えられていましたが、その一坊であった持宝院の仏像が、この三津寺に残っていることが、最近わかりました。

本堂の手前右側、前堂（愛染堂）にまつられている仏像が、生玉宮寺の持宝院にあった仏像と考えられます。生玉宮寺の仏像が、こうしてまとまって残っていることは他には例はなく、とても奇跡的なことといえます。



『弘化改正大坂細見図』(1845年)より

### 3 三津寺仏像群 本堂内陣

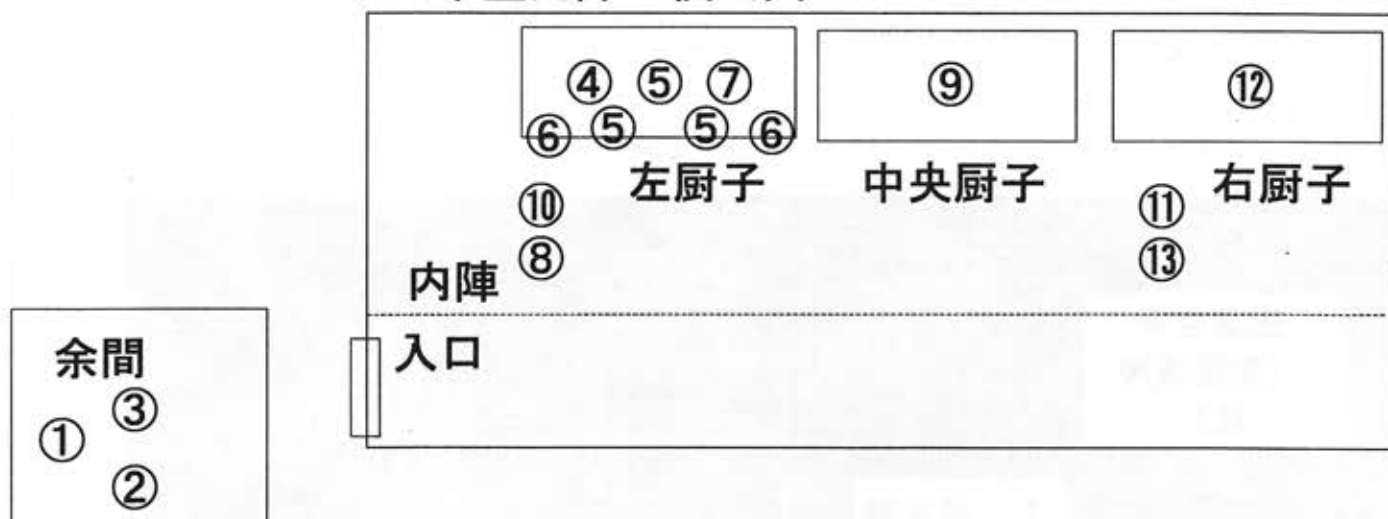
三津寺の本堂内陣には、古くは平安時代から、室町・江戸時代に製作がさかのぼる仏像がまつられています。このようにたくさんの仏像が、現代まで伝わっていることは、火災の多かった大阪の町では、ほんとうに珍しいことです。

1860年頃の『摂津名所図会大成』という書物には、本堂中央に本尊の十一面観音、その脇に弘法大師と薬師如来をまつるとあり、仏像の配置が、今とほぼ同じであることがわかります。

これらの仏像は、「三津寺仏像群」という名称で、2015年に大阪市指定有形文化財となっています。900年代後半に製作年代がさかのぼる地蔵菩薩立像をはじめ、三津寺の仏像はいずれも、つくられた時代の特色をととてもよくあらわしており、保存状態も優れています。等身大の大きな仏像が多いことも特徴のひとつです。

三津寺の本堂内陣は、江戸時代の大坂の密教寺院の、市中の町人から厚い信仰を集めていた様子と雰囲気、今に色濃く伝えていきます。

本堂内陣 模式図



#### 仏像の名称と製作年代

- ① 木造聖観音菩薩坐像 (頭部：平安時代 1000年代 体部：江戸時代)
- ② 木造男神及二眷属像 (江戸時代 厨子入)
- ③ 木造明王立像 (江戸時代 厨子入)
- ④ 木造愛染明王坐像 (室町～江戸時代)
- ⑤ 木造薬師三尊立像 (中尊 薬師如来：室町時代、  
脇侍 日光菩薩・月光菩薩：江戸時代 1681年作)
- ⑥ 木造十二神将立像 (江戸時代 6 軀ずつ 2 基の厨子入)
- ⑦ 木造不動明王立像 (江戸時代)
- ⑧ 木造地蔵菩薩立像 (平安時代 900年代後半)
- ⑨ 木造十一面観音菩薩立像 (本尊 江戸時代)
- ⑩ 木造毘沙門天立像 (平安時代 1000年代末～1100年代前半)
- ⑪ 木造大日如来坐像 (平安時代 1100年代後半)
- ⑫ 木造弘法大師坐像 (江戸時代 1680年作)
- ⑬ 木造弥勒菩薩坐像 (室町時代 1300年代後半)

## 4 三津寺仏像群 前堂（愛染堂）

三津寺の本堂にまつられている仏像は、三津寺にもとから伝わっていた仏像です。これに対して、前堂（愛染堂）にまつられている仏像は、生玉宮寺の一坊であった持宝院の仏像で、明治の廃仏毀釈で生玉宮寺が廃寺となった時に、三津寺に移されたと考えられます。

中央にまつられている愛染明王坐像と、その左側の弁才天坐像の台座には、修理を行った時に墨で記された銘が残っています。その内容から、もとは持宝院にまつられていたことがわかります。

江戸時代には、神仏習合の考え方から、生玉宮寺のように、神社とお寺が一体である場合が少なくありませんでした。このようなお寺を「神宮寺」とよびます。しかし、廃仏毀釈で廃寺となり、宝物のほとんどが失われたため、生玉宮寺の様子はよくわかっていません。前堂（愛染堂）の仏像は、生玉宮寺の宝物が今に伝わる、とても貴重な事例です。

### 前堂（愛染堂） 模式図



### 仏像の名称と製作年代

- |   |              |                    |
|---|--------------|--------------------|
| ① | 木造地藏菩薩立像     | (江戸時代 厨子入)         |
| ② | 石造地藏菩薩立像     | (江戸時代 厨子入)         |
| ③ | 木造男神坐像       | (江戸時代)             |
| ④ | 木造弁才天坐像      | (江戸時代 1733年の修理銘あり) |
| ⑤ | 木造愛染明王坐像     | (江戸時代 1815年の修理銘あり) |
| ⑥ | 木造大黒天立像      | (江戸時代)             |
| ⑦ | 木造愛染明王坐像     | (江戸時代)             |
| ⑧ | 木造不動明王及二童子立像 | (江戸時代 厨子入)         |
| ⑨ | 木造弘法大師坐像     | (江戸時代)             |
| ⑩ | 木造大隋求菩薩坐像    | (江戸時代)             |

大阪の歴史再発見 大阪市指定有形文化財  
三津寺仏像群の特別公開 資料

2017年3月8日～13日

主催：大阪市教育委員会・大阪密教美術保存会  
共催：公益財団法人 関西・大阪21世紀協会  
朝日新聞社

発行：大阪市教育委員会 文化財保護課  
tel：06-6208-9168